

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

MSW ニュース 8月号

2019年8月1日発行

事務局：大浜第一病院

〒902-8571 那覇市天久 1000 番地

TEL (098) 866 - 5171

FAX (098) 864 - 1874

E-mail t-matayosi@ns.omotokai.jp

編集：大城 将平

(沖縄リハビリテーションセンター病院)

MSWニュースは毎月1日
沖縄県医療ソーシャルワーカー協会
ホームページに更新掲載されています

<http://www.msw-oaswhs.jp/>

◆ c o n t e n t s ◆

2019年度第2回沖縄県慢性期医療協会SW部会研修参加報告	P2
2019年度沖縄県医療ソーシャルワーカー協会初任者研修1日目に参加して	P2~3
2019年度沖縄県医療ソーシャルワーカー協会初任者研修2日目に参加して	P3
自主勉強会報告	P4~5
トピックス「奥川幸子氏の思い出を語る会に参加して」	P6
沖縄県医療ソーシャルワーカー協会所属の認定社会福祉士の紹介	P7
新入会員紹介	P7
部会からのお知らせ	P8~9
7月理事運営会議録	P9~11
編集後記	P11

研修報告

2019 年度 第 2 回 沖縄県慢性期医療協会 SW 部会研修

『トランスジェンダー／LGBTD』に参加して

牧港中央病院 地域医療連携室 友寄彩

令和元年 6 月 27 日(木) 牧港中央病院で開催された沖縄県慢性期医療協会の研修について報告します。講師は沖縄大学の加藤慶氏をお招きし、「LGBT とソーシャルワーク」のテーマで講話して頂きました。

近年では性の多様化がメディア等で取りざたされ、昔に比べると当事者も声を出しやすく周りも受入しやすい環境に変化しつつあります。社会の動向としては 1993 年に同性愛、2019 年に性同一性障害が脱病理化されています。脱病理化された一方、医療費の観点からも「病氣と認められた方が良い」との考えも当事者の一部にはあるそうです。

また、同性婚が認められていない日本では、パートナーと生活する中で相続の問題や役所・医療機関等での手続きの件、公営住宅の入居対象外になるなど様々な問題を抱えています。2015 年には那覇市が「性の多様性を尊重する都市・なは(レインボーなは)」宣言を発表し、パートナーシップ登録制度を導入しています。今後浦添市も条例(案)制定に向けて取り組んでいるようです。

現在、LGBT 当事者は 50～60 代が中心で今後更に高齢化が進むと見込まれています。私自身、未だ関わったケースがありませんが今後関わる機会が出てくるかと思えます。多様性を受け入れたいという思いと、同意書の署名は親族で・・・という現実のジレンマに悩まされることがあるかもしれません。課題の多いテーマだと感じますが、その時まで知識を深めていきたいと思えます。

補足ですが、この研修で一番驚いたことは、人口比率に対してのゲイバー件数では、47 都道府県中(1位) 東京(2位) 沖縄となっており、東京は近隣の県からも集客があると想定すれば単独で見ると沖縄がトップになるということです。同性婚が認められている州があるアメリカや台湾の存在が他県より近い沖縄では、性に対して寛容になっているのかもしれない。この数字から見ても身近な環境であることを感じました。

2019 年度 沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

初任者研修 1 日目に参加して

大浜第二病院 医療福祉課 銘苺 由紀子

令和 1 年 6 月 16 日、沖縄協同病院で行われた初任者研修に参加しました。午前の 1 回目は「医療制度改革の変遷と MSW の業務」についての内容で、医療政策の変更に伴い医療ソーシャルワーカーの業務も影響を受けるようになり、医療費の適正化で医療機関における役割が確立され、その後地域を含めた多職種が協働するための調整や医療・介護・福祉をつなぐ役割を医療ソーシャルワーカーが担っていくようになったことがわかり、疾病を抱えた生活者としての視点が必要になってくることが理解できました。

2 回目は「ソーシャルワーカーの価値・倫理」についての内容で「価値」とはすべての人間が平等で価値ある

存在であり、尊厳を有していることを認めて尊重しなければならないということを再確認することができ、日々の業務の中でソーシャルワーカーとしての大切な部分が抜け落ちていなかったか自身の行動を振り返りながら学ぶことができました。

午後の部1コマ目は「生活保護制度」の内容で、生活保護の原理・原則や生活保護の八つの扶助について、又 H30 年に一般世帯との均衡をはかるため児童養育加算や生活保護申請に至る前の支援として生活困窮者自立支援法が施行されたことなど、生活保護の基準も時代に合わせて改正や見直しが行われていることを学びました。

午後の部2コマ目は「医療保険制度」の内容で、医療保険や保険給付の種類、高額療養費制度や社会資源について学びました。理解しているつもりでしたが、グループでケースをもとに医療費の計算をしたところ見落としや、アセスメント不足に気づかされました。今回は、第一回目の研修でしたが学びや気づきの多い研修内容でした。

2019 年度沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

初任者研修 2 日目に参加して

豊見城中央病院 地域医療部入退院支援室 清水香保里

令和 1 年 7 月 13 日、ハートライフ病院において第 2 回初任者研修会が開催されました。今回のテーマは実践に必要な医学知識ということで、沖縄県立中部病院神経内科医の金城正高先生から脳卒中について、同院、糖尿病認定看護師の島袋瑞枝さんからは糖尿病についての講義を受けました。今まで病気について学んだ経験もほとんどなくこの世界に飛び込んできたため、医学的な知識が乏しく勉強不足をずっと感じていました。そのような時に良い機会をいただき嬉しく思います。

脳卒中についての講義では、脳卒中とは脳出血、脳梗塞、くも膜下出血の 3 種類の総称で、その違い等について学びました。脳卒中は介護保険の第 2 号被保険者の特定疾病にも入っていて 65 歳未満の方であっても要介護状態になり得る疾患であり、今後かかわる機会が多いかと思えます。その時には利き手や軸足の確認、運動機能障害がどのように生じているかを確認しアセスメントすることで、麻痺を負ったとしてもできるだけ在宅で生活できるよう支援していきたいです。

糖尿病についての講義では、どのような病気でどのような合併症を引き起こすのか、治療方法等について学びました。中でも印象に残ったのは合併症についてで、糖尿病は万病の元と言われており神経障害、腎障害、下肢壊疽、脳梗塞等様々な病気を引き起こすということを学び、入院患者の多くに糖尿病の既往があることに納得がいきました。特に下肢壊疽については壊疽した部位の写真をスライドで拝見させていただき、生々しくショッキングな写真ではありましたが、なかなか今まで機会がなかったので見ることで良かったです。また、下肢切断となると日常生活に大きな支障をきたす場合もあるため、フットケアが重要となってくることを学びました。私が入職して数ヶ月の間にも糖尿病で下肢を切断した患者様がいらっしゃいました。この方もフットケアについてもっと知識があれば切断まで至らなかったかもしれません。

私は退院支援担当のため、かかわるのはすでに病気になってしまった患者様になるとは思いますが、病気の予防についてももっと周知していく必要があると強く感じました。他にも、講義中に実際にインスリンに触らせていただき手技を体験しました。実際試してみることで高齢患者が自身で注射をすることの大変さ困難さを感じ

ることができました。今回の経験を今後の支援に活かしていきたいです。

今回の研修を受けて、患者さんを包括的に支援することの大切さを学ぶことができました。

これから患者さんに対して支援を行う時には、入院病名だけでなく既往歴や家族歴にも目を向けて退院支援を行なっていきたいと思いました。今後も自発的に退院支援に必要な医学知識を勉強しつつ、日々業務に励みたいと思います。

在宅医療・介護連携 報告

※7月報告は休載します

自主勉強会報告

めだかの学校

宜野湾記念病院 山内海斗

7月17日に、北中城若松病院の講堂にて、地域包括支援センター職員による「包括支援センターの役割について」の講演が行われました。講演では、地域包括支援センターのパンフレットや資料を用いつつ、包括支援センターの役割、設置数などが紹介されました。

地域包括支援センターの役割として高齢者の権利擁護、総合相談等の業務以外に地域ケア会議が紹介され、職種が集う個別課題型、地域の課題を表面化し共有する地域課題型等、様々な形態の会議が開催されていることが分かりました。

認知症に関する相談できる体制として話がしやすいカフェで、ふてんま健康教室が開催していることが紹介されました。相談窓口ではなく、地域にあるカフェが担うことで相談しやすく、話しやすい環境が生まれているという印象を受けました。

地域での活動として地区ごとに公民館の体操教室の開催、地域の美化活動や安否確認を行う地域支え合い委員会などがあり地域住民や公民館などの協力、見守りが重要であると感じました。

地域包括支援センターと病院との連携では、退院直前に地域包括支援センターに支援を依頼する事例が紹介され、適切な情報提供、事前にアセスメントを行うなど入院時からの支援を行うことが基本であると痛感しました。

今回の講演を通して地域における社会資源の把握、お互いを尊重した連携を意識し、今後の支援に活かしていきたいと思います。地域包括センターふてんま 岡様、忙しい中、講演していただいたありがとうございます。

めだかのホームルーム

沖縄協同病院 地域連携課 玉那覇夏汀

7月10日(水)に沖縄協同病院で行われた、めだかのホームルームについてご報告します。今回は、事例検討を行いました。大浜第一病院 當銘由香さんから事例を提供して頂きました。

事例の概要としては、ターミナルの患者さんやその家族が、入院時に医師から「病院で看取ることになる」と説明を受け、『自宅に帰りたい・自宅で看たい』という気持を言えずにいましたが、本人・家族の思いを當銘さんが聞き取り、医師へ伝え、必要な社会資源へと繋げていった事例でした。當銘さんは入院後すぐ本人・家族へ接触、短い時間の中でサービス調整を行っていました。

医師や医療従事者からの言葉は、患者さん本人や家族の気持ちに影響を与えます。MSWIは本人や家族の本当の気持ちを聴き、周りへ伝えるアドボカシーの役割と、本人・家族にとって残された時間が、希望に沿って過ごせるよう早期介入の大切さを改めて感じました。

次回のめだかのホームルームは9月15日～16日の1泊2日、久米島病院/新垣さんのお力も借りて、久米島で勉強会を行います。個人的には、初めての久米島ということもあり、とても楽しみです！！

めだかの放課後

那覇市立病院 伊禮智則

7/9(火)に中頭病院でめだかの放課後が開催されました。今回は、8/25(日)開催される県民健康フェアの職場体験について話し合いました。

県民健康フェアでは、今年度新たな取り組みとして、小中学生を対象とした職場体験を企画することになっています。各職能団体からも意見を求められており、今回めだかの放課後では、次回会議に向けて当協会の意見を集約することとしました。今回話し合った内容をMSW協会からの提案とし、次回なごみ会の会議で各職能団体と協議し確定される予定です。

皆さんもこの機会に家族で参加し、健康について考えてみてはいかがでしょうか。また、当日は例年通り当協会ブースも OPEN しているので、協力要請のあった会員の皆さんは笑顔で協力していただけるとありがたいです。

トピックス

「奥川幸子氏の思い出を語る会に参加して」

青(あお)は藍(あい)より出でて藍(あい)より青(あお)し

沖縄国際大学 総合文化学部 人間福祉学科 樋口 美智子

「奥川幸子(おくがわ さちこ)さんの思い出を語る会」が、2019年6月29日、日本社会事業大学専門職大学院 文京キャンパスで開催され、又吉智子さん・大城則子さん・宮良あさのさんと一緒に参加しました。

奥川先生は、現:東京都老人医療センターで24年間、医療ソーシャルワーカーとして勤務後、1984年からグループスーパービジョンを始められました。奥川グループスーパービジョン(OGSV)は、仲間同士が互いに支えあい高めあうグループ活動として発展し、奥川先生は対人援助職トレーナーとして、全国でスーパービジョンを引き受けておられました。その奥川先生が、沖縄の医療ソーシャルワーカーのために、何度も沖縄に足を運んでくださったことは、本当に有難いことで、感謝の気持ちでいっぱいです。

奥川先生がグループスーパービジョンの中で、常におっしゃっていたのは、ソーシャルワーカーとして、「当事者への畏敬の念と謙虚な気持ちを忘れないこと」「気づき、振り返り続けること」「利用者の“福利”をいつも考えること」でした。スーパービジョンでは、「問題の“中核”は何か?」「俯瞰”してみる(ポジショニング)」「地域特性、文化的背景を読み取る」ことが求められました。そしてグループとしては、「バイザー中心、バイザーをサポートすること」「私的な私、職業的な私を認めること」「愛情のあるまなざしで育てること」を学びました。初任者には、「とにかくクライアントのために一生懸命がんばること」「クライアントの役に立たなくても不利益を与えないこと」「自分の感性は疑わないこと」と励ましてくださいました。また中堅者には、「何のための問いなのか、聴くからには手当てができなければならない」「臨床の4つの目玉:透視・観察・驚き・分析を持つこと」「本人の生きざま、強さ、覚悟を見積もること」が重要と話されました。

奥川先生との出会いを振り返ることで、初心に戻ることができました。いつも藍色の服を着ておられた先生の姿に、「青は藍より出でて藍より青し」(青色の染料は藍から取りますが、原料の藍よりも青いという意味から、教えを受けた人が教えた人より優れること。)という例えが重なりました。師を超えることは難しいですが、一人一人が自分らしさを活かし、専門性のあるソーシャルワークができるよう、互いに支え合い高め合う場を持つことが必要です。そのような仲間と出会える職能団体でありたいと思います。

さて、当県協会の自主勉強会OGSVは、メンバーが入れ替わりながら現在も月1回開催しています。当初は奥川先生がスーパーバイザーを育てるという目的で始まりましたので、10名のクローズの形でしたが、現在は特に参加メンバーの制限はありません。どなたでも歓迎しています。主には研修として行われる事例検討会の前プレ検討や、学会発表前の予演、研修会のシラバス検討など、スーパービジョンに関することを学んでいます。自身の実践で悩んでいることを聞いてもらうこともありますし、事例として纏めてきてグループスーパービジョンを行うこともあります。“スーパービジョン”の奥深さに出会える場ですので、経験年数の違いがあっても学べるものがそれぞれあります、みなさんもぜひご参加ください。

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会所属の認定社会福祉士の紹介

大浜第二病院 安慶名真樹

私が認定社会福祉士を目指した理由はひとつ。今までの実践を振り返るいい機会になるだろうと思ったからでした。しかし実際の課題に取り組んでみて感じたことは、いかに「理論なき実践」を行ってきたことか！いや、正しくは「いかに理論に立った実践を行っていることに普段から無自覚だったか」ということに気付かされました。私たちは面談の中で何かしらを感じながらクライアントとコミュニケーションを取っているはずですが、それが何なのかあまりに無自覚であることに気付いた事が一番の収穫でした。自分の実践には責任が伴うこと、実践したことを言語化する力が必要なこと、無意識ではなく意識的な実践でなければいけない事など、専門家として当然ですがそれが出来ていなかったことを反省しました。

「ソーシャルワークができない社会福祉士」にならないよう自分を奮い立たせる、いいきっかけになりました。日々悩みながらもより良いソーシャルワーク実践を行えるよう、仲間たちと共に学び合い、5年後認定社会福祉士の更新に挑めたらと感じています。皆さんもいい自己研鑽の機会になると思います。ぜひ挑戦してみてください。

新入会員紹介

西崎病院 眞榮城勝子

はじめまして。西崎病院に勤務しています眞榮城勝子です。資格取得からおおよそ10年経て、初めて実務に就きます。福祉に興味を持っていたのは中学時代でした。しかし、看護の道を歩み出したのですが、福祉への関心は益々高まった様な気がします。福祉は幅が広く大変だと思いつつ、自分なりに医療の現場にいた者として、何か応用ができるのではないかと期待しつつ、今の仕事を楽しんでいます。

上司からの指導を受けながら、さらに患者様から学びつつ相談援助をスムーズに運べるように努力しています。常に思いやりと感謝の心を忘れずに日々精進していけるように頑張りたいと思いますのでどうぞ宜しくお願いします。

沖縄赤十字病院 仲間 美緒

初めまして。今年4月に地域医療連携室に産休代替職員として配属された仲間美緒と申します。医療ソーシャルワーカーとしての経験はこれまでなく、病院での介護職や介護保険の認定調査員として働いてまいりました。約1年前に社会福祉士の資格を取得し、更なる経験を積みたいと思い働き始めて約3ヶ月が過ぎようとしていますが、初めて経験する業務に日々戸惑いを感じながら先輩方についていくのに必死な毎日です。これから関わる患者様やそのご家族の思いに少しでも寄り添える支援を提供出来るよう頑張っていきたいと思っておりますので、皆様これから宜しくお願いします。

.....

部会からのお知らせ

.....

8月研修部だより

初任者研修(3年未満)

テーマ	①アセスメント ②記録 ③④退院援助
日時	2019年 8月 4日 (日) 9:00受付 9:30開始
会場	大浜第一病院
参加費	会員無料 会員外は 3,000 円 (当日申込み無料となる)
問い合わせ	株式会社 千家 香村 090-6862-7744

めだかの学校(おおむね経験年数3年未満)

テーマ	事例検討会 提供者:佐平氏(ハートライフ病院) バイザー:安慶名氏(大浜第二病院)
日時	2019年 8月 16日(金) 19:00
会場	ハートライフ病院
参加費	無料
問い合わせ	大浜第二病院 医療福祉課 謝敷

めだかのホームルーム(おおむね経験年数3年以上)

テーマ	小児事例検討会
日時	9月15日(日)
会場	公立久米島病院
参加費	無料(飲食代100円)
問い合わせ	沖縄協同病院 地域連携課 松永

めだかの放課後(経験年数5年以上)

テーマ	未定
日時	
会場	中頭病院
参加費	無料(飲食代200円)
問い合わせ	大浜第一病院 医療福祉課 當銘

OGSV

テーマ	社会福祉士実習 様式について
日時	2019年8月6日(火) 19:00~20:00
会場	那覇市立病院
参加費	無料
問い合わせ	那覇市立病院 樋口

2019年7月25日付
発行 香村(株式会社 千家)

7月理事運営会議録

2019年7月22日(月)19:00~21:00
場所: 県総合福祉センター

【参加者】樋口会長、新垣副会長、當銘事務局長、安慶名(司会)、伊禮、香村、長、
高江洲(書記)

【欠席者】又吉副会長、秦、奥平、石郷岡、仲地、山城、小橋川、大久保

1. 各部報告

[研修部]香村理事

1) 初任者研修

今回第2回目に医学講座を取り入れ有意義であった。

『脳卒中について』講師: 金城医師 (中部病院)

脳卒中のみならず関連の生活習慣病について学習した。ワーカーの視点で支援すべき事項を具体的に示された。介護保険の制度等の説明もあった。

『糖尿病について』講師: 島袋看護師

インスリンキットを触る機会を設けたことで在宅に向けた支援がよりイメージできた。

2) 8月研修部だよりより

めだかの学校より相談、協力依頼があった。

9月: 『低所得者でキーパーソン不在の対応について』適切な講師を紹介して欲しい。

どのような内容を要望しているか? パーソナルサポートへ講師依頼するか? 低所得者とキーパーソン不在を別々にすることも検討するか?

10月: 『カンファレンスの進行について』

カンファレンスの手法については医療機関によって異なる。どのような目的で、どのような準備をし、何をポイントとするか、自施設の手法を持ち寄って意見交換をするなかから共通する気づきが得られるのではないか。ファシリテーターを派遣するのはどうか？

>>上記再度めだかの学校と相談する。

OGSV:8月6日(火)19:00~那覇市立病院

ソーシャルワーク実習のアセスメントシートの様式について討議したい(樋口会長)

どこで研修をしても標準的な効果が得られる様式があったほうが良い。

個別支援からみえる地域(普遍的)の課題まで導ける様式にしたい。

3)4団体協議会:第一水曜 令和元年8月7日(水)開催予定。

4)2019年度 県協会中堅者研修 統合的短期型支援(ISTT)を学ぶ

日時、会場の候補を検討中である。

せっかくの沖縄開催なので趣向を変え OIST の案もある。

5)慢性期病院研修会:令和元年9月5日(木)14:00~16:00 場所:調整中

6)ソーシャルワーク実習期間中の臨床倫理の講義について

これまでは琉球大学医学部附属病院が実習生を受け入れていたため日時や会場の設営が可能であった。今年度の運用について、大久保理事へ相談する。

主催と交通費について要検討。

7)介護老人保健施設との合同研修会について

今年度担当:かりゆしの里(宮平さん)

入退院支援連携デザイン事業にて実施する。

日程、テーマ、内容、講師の調整中である。

>>介護医療院のことを知りたい

[広報部]安慶名理事

担当:沖縄リハビリテーションセンター病院(大城さん)

[社会活動部]

第9回県民健康フェア:令和元年8月25日(日)開催

当会が提案した「職業体験型コーナー 疾患別で各職能を回って知識を深める」が採用された。

2. 事務局より

1)NPO 法人沖縄県脊椎損傷者協会より「沖縄県の脊損損傷者の生活現状に関する実態調査依頼」の協力依頼がある。

ネット回答が可能である。

2)医療ソーシャルワーカー九州協議会について

令和元年11月開催に向け、議題の調整等が必要である。

予算決算報告を7月に行うため、会員名簿(退会者の把握等)の整理が必要である。

>>口座登録済のチェック作業を行う。

3)入退院支援連携デザイン事業

プロジェクトチームの会議が令和元年7月16日開催された。

北部圏域合同会議は7月18日(木)開催された。

南部圏域合同会議は8月1日(木)を予定している。

中部圏域合同会議は8月27日(火)を予定している。

宮古を9月24日、八重山を9月26日に予定しているが、参加可能な理事はいるか？

次回のプロジェクトチームは令和2年1月を予定している。

次回理事会 8月22日(木)18:30～ 司会:新垣、書記:小橋川、連絡:高江洲

✿編集後記✿

今月のトピックスでは『奥川幸子さんの思い出を語る会』が挙がりました。これまで直接お会いする機会はありませんでしたが、過去の研修資料を引っ張り出して読み返してみると、奥川先生から学んだ事が今の私の価値や知識として支援に活かされている部分があり、とても嬉しく感じました。そして課題もたくさん(≧▽≦)

数年前に参加させて頂いた中堅者研修(MSW協会主催)では『実践事例の書き方』と題して、奥川先生の対人援助職トレーナーとしての想いがたくさん詰まった資料を基に「SWとしての‘ひっかかり’や‘こだわり’」「やりとりの逐語記載」「書く作業を通しての自己検証」など様々なキーワードを大切にしながら必死で事例を作り上げたのを思い出します。

今回編集を行う中で、会員の皆さんが多くの研修に参加し専門性を高めようとする姿を見せていただきました。素敵な講師との出会い・素敵な研修との出会いは、本当に自身の考えの支えとなり業務に活かされます！
たくさんの素敵な出会いを求めて切磋琢磨しちやいましょう～。

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会のホームページ

<http://www.msw-oaswhs.jp/>